

（仮称）槇尾学園基本計画書 概要版

1. 基本計画策定の背景・目的

和泉市では、平成 29 年度より市内全ての中学校区において小中一貫教育を実施しており、平成 29 年 4 月には、本市で初となる施設一体型義務教育学校「南松尾はつが野学園」が開校し、ソフト・ハードが一体となった小中一貫教育の効果を確認している。

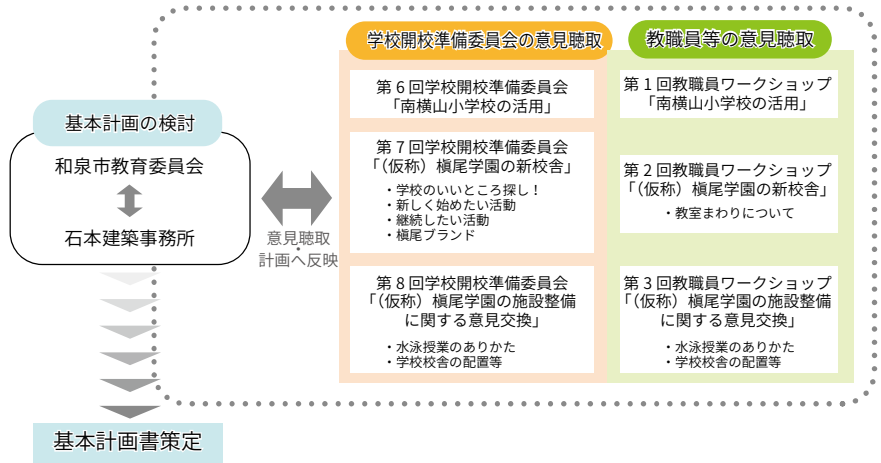
今回、施設一体型義務教育学校を計画する槇尾中学校区は、本市の南部に位置し、西国四番札所の槇尾山施福寺に代表される古刹や緑豊かな環境に囲まれた農業等が盛んな歴史ある地域でありながら、大阪市内へも約 1 時間で到着できる立地環境にある。

全国的に少子化が進む中、和泉市も例外でなく、特に槇尾中学校区内にある横山小学校、南横山小学校、槇尾中学校では、児童生徒数の減少が進み、集団教育や切磋琢磨する機会の減少等が懸念されていた。

このため、槇尾中学校区の更なる教育環境の充実を図るべく、南松尾はつが野学園と同様の効果を期待し、横山小学校、南横山小学校、槇尾中学校を統合し、南横山小学校で導入している市内全域から通学できる特認制度を継承した新たな施設一体型義務教育学校「（仮称）槇尾学園」（以下「槇尾学園」という。）として、現槇尾中学校敷地に新校舎を整備することとした。

本基本計画は、新校舎整備が槇尾学園における魅力ある学校づくりに繋がることを目的として、施設整備に係る諸条件を整理するため策定するものである。

■基本計画策定までの流れ



2. 槇尾学園の学校づくりの基本的な考え方

槇尾学園は、市内全域から通学可能な小中一貫特認校として設置するため、市内の児童生徒から選ばれる魅力ある学校づくりを進めることが求められている。

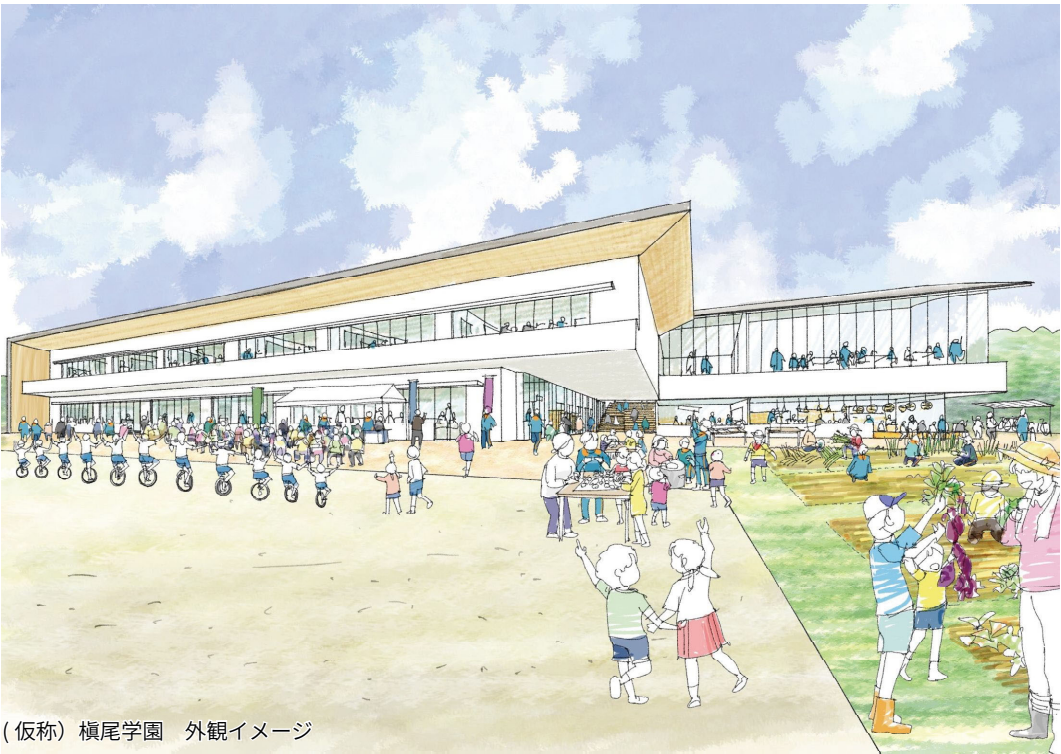
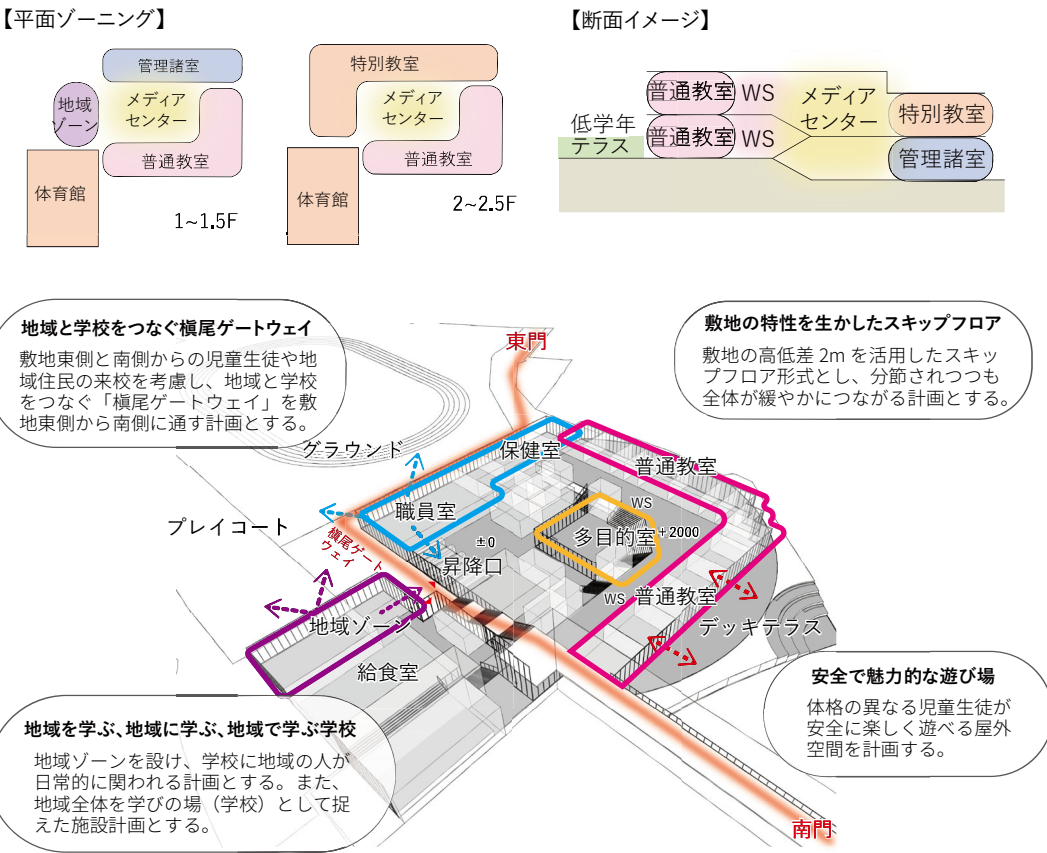
槇尾中学校区は、地域と学校との関係性が近く、地域の学校に対する協力や支援が充実しており、校区内には、関西トランスウェイスportsスタジアム、道の駅が併設された和泉市南部リージョンセンターや府内でも珍しい学校林等のある南横山小学校など、教育活動の場として活用可能な地域資源が数多く存在している。

槇尾学園では、3 校の統合によって「地域全体が学びの場」となることから、学びのフィールドの広がりを生かして、子ども達の豊かな学びの充実に向け、和泉市の教育をリードする学校として先進的な教育を展開し、地域特性を生かした地域の教育、コミュニティの拠点として、魅力ある学校づくりに取り組む。

3. 施設コンセプト

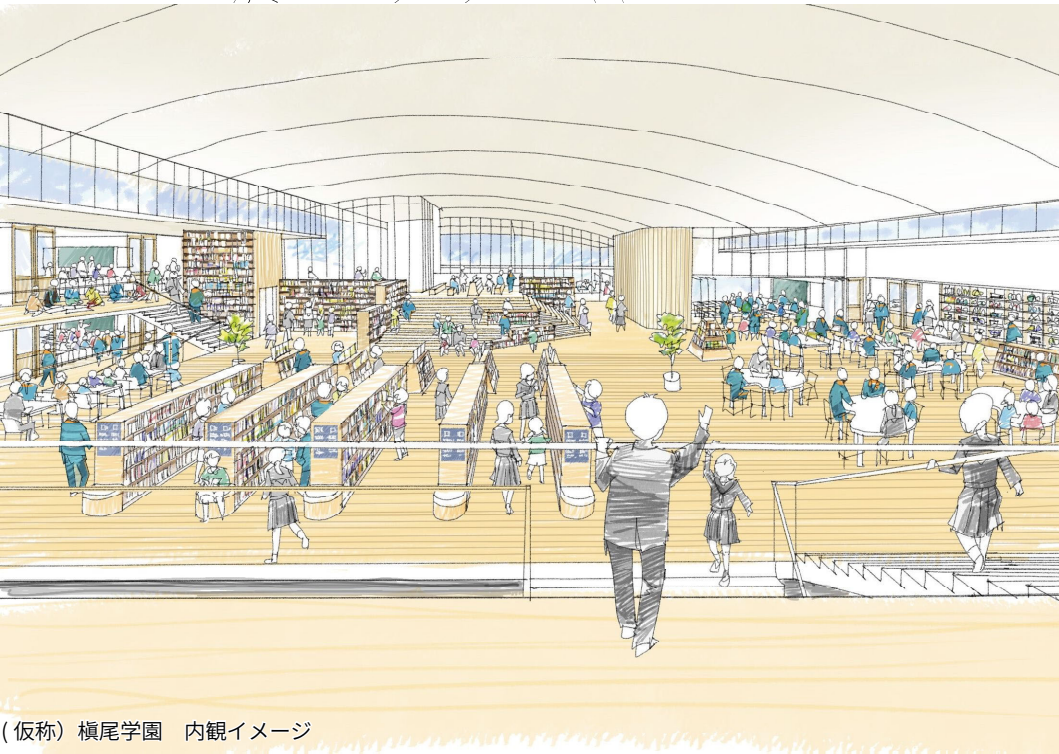
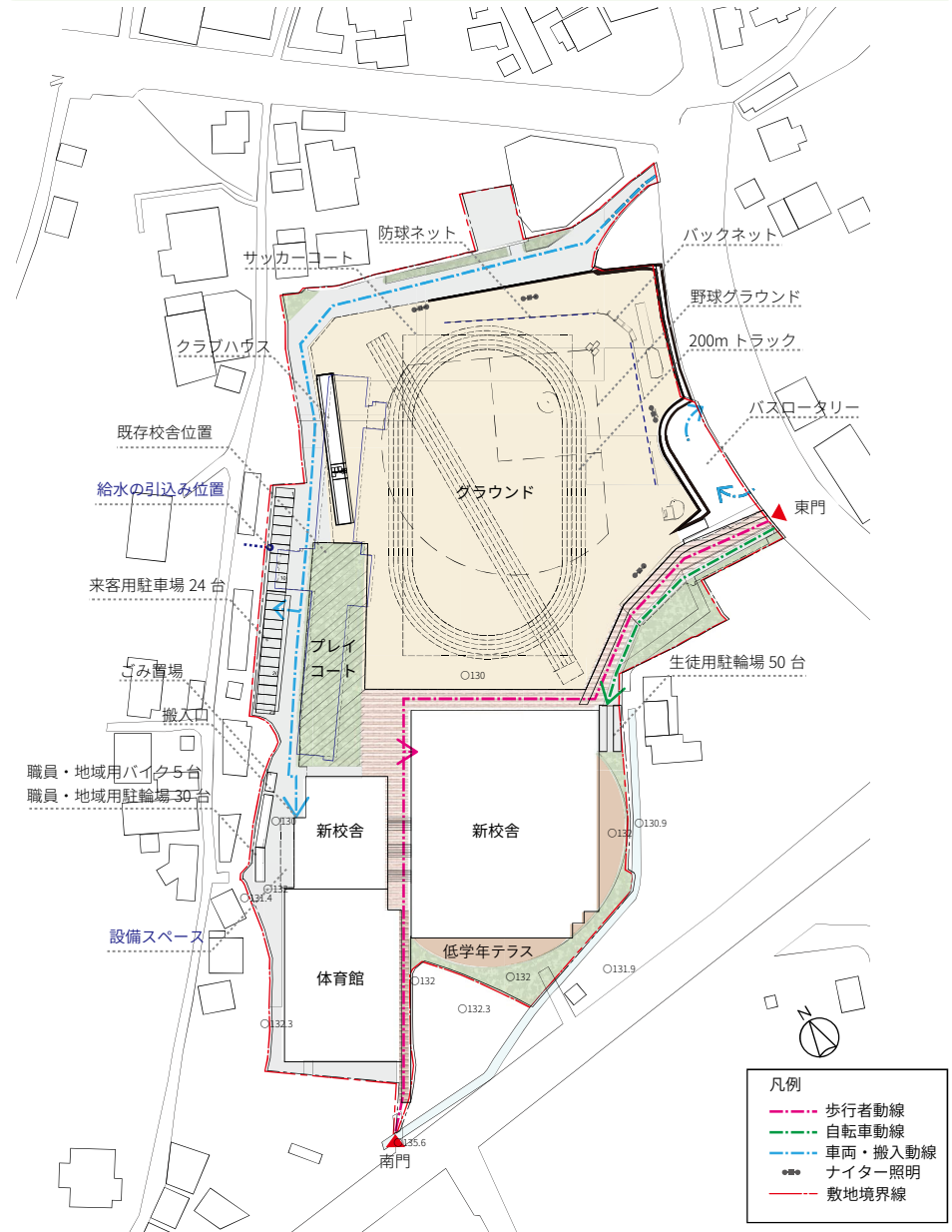
市内全域から通学できる特認校として、選ばれる学校を目指し、地域の特性を生かした槇尾ならではの特徴ある学校とする。

- ①校舎すべてが学びの場
・校舎の中心に学びのきっかけがいっぱい詰まったメディアセンター（図書室）を配置する。
・メディアセンターのまわりに4-3-2学年を設定することで、緩やかにゾーニングした普通教室を配置する。
- ②地域と共に育む校舎
・地域の人々と児童生徒が日常的に気軽に交流できるように地域ゾーンと学校ゾーンとを一体的に計画する。
・児童生徒がいつもお互いの活動を感じられるように校舎全体がひとつ屋根の下で緩やかにつながる計画とする。
- ③敷地の特性を生かした校舎
・約 2m の敷地の高低差を利用し、各階が半階ずれたスキップフロア形式の校舎とする。
・南から登下校する児童生徒がグラウンドに抜けられるように、敷地の高低差を生かした立体交差の動線とする。



（仮称）槇尾学園 外観イメージ

4. 施設配置計画



（仮称）槇尾学園 内観イメージ

5. 平面計画

